夕刊
磐城新聞
三月三十日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾五錢（郵税拾五錢）
廣告料金 普通欄金六拾錢 特報欄金九拾錢 五號十二字詰一行一回（場所指定一行一割增）
編輯印刷兼發行人 [illegible] 平町十六番地
發行所 磐城新聞合資會社
電話五六四番
（日曜祭日翌日休刊）
東京振替一〇六五八五番

童話 海の恩人 (二)

萬次郎より一つ年上の五右衛門が

『お母さーん』

といつて泣き出した時も萬次郎はぐつと自分の悲しみを押へて

『そんなに泣く〱雷様に笑はれてへそを取られるぞ』

と言つて皆を笑はせました。

この船が宇佐浦を出たのが五日　嵐にあつて流されはじめたのが七日、それから八日、九日、十日、十一日、十二日と流されつづけて十三日のお晝頭です。疲れ切つて皆ゴロゴロ寢ころんでゐる中に萬次郎は澤山の白い鳥が海の上を飛んでゐるのを見つけました。

『小父さん、鳥です、信天翁ですよ』

『何、信天翁だつて』

四人はがばと飛起きました。筆之丞はきつと見て

『うむ、確かに信天翁だ。皆喜べ私達は助かるぞ』

『わつ』

『あの鳥がかたまつて飛ぶ近くにはきつと陸地があるのだぞ』

『まつ、陸が、あゝ、それちやほんとに助かるのか』

皆の眼は喜びの涙が光りました。船はだん〱信天翁の群にちかづいて行きます。五人は眼を皿のやうにしてじつと見つめてゐました。はるかに見えた黑一點

『おゝ、見えたぞ』

『うむ、あれは島だ。』

『いや〱、あれは雲かも知れないぞ』

船はいよ〱近づきました。

黑い點はだん〱大きくはつきり見えました。

『島だ、確かに島だ、おーい〱』

それは間違ひなく島でした。小さな島です。しかもその廣い荒海の中にぽつんと浮かんでゐる島でした。周圍は切立てたやうな崖になつてゐるのです。波が荒いので船を岸に近づける事が出來ません。元氣な萬次郎はいきなりドブーンと海へ飛込んでスッ〱と泳ぎ出しました。つゞいて又一人ドブン、又ドブン、ドブン、ドブーン

假令それが、どんな所であらうと皆は嬉しかつた。島の上に上つた五人はものも言はずしつかり抱き合つたまゝしばらくは嬉し涙にくれました。ふいに、メリメリと大きな音がしました五人が夢からさめたやうに振返ると今乗りすてたあの船が大きな波の爲に岸に打つけられ微塵にこはれて沈んで行くのでした。

家運

池本利美

○なかなかに家運といふはひらき難し物騰る世をやりくりて生く

○父のあとつぎて吾も教員となりはてぬ家運ひらくるはひい孫の代か

○錢をもつ樣では仕事に責がなしと教員をして久しく思ひし

○年ふけて教員ぐされがしてゐれば錢ほしき話に心よらさり

○冬草の青き田圃をとびたちし鳥の背はしろく光りし

網太くたれて遲日の宮の鈴　鴻城子

春初田園

珠雲　小野務平

春冷梅花尙索然
新鶯何日出谿遷
朝來積雪深三寸
萬落千郁兆有年

3月31日

△始めて清涼殿に歌會を行ふ（天德四）△國家總動員法公布さる（昭和一三）

天氣豫報

小名濱測候所觀測

今晩は南の晴一時曇
明日は南西の風時々曇

講談

恩讐無道

久我莊多郎
香川三十代畫

（64）

—天の巻—

乘合馬車（十）

『いや。妹たちがわたしを待つてゐるから、早く歸つてやらないと……』

と、一度は依田の慫ようをしりぞけたが、

『是非、君に聞いてもらひたいことがあるのだ。これは、僕の意志ぢやない。ワドンソン氏の言葉がふくまれてゐるのだから、食事をしながら聽いてくれ給へ』

と、依田が聲を強めると、傍から、メリーもすゝめたので。

『それでは……』

惣介は、依田たちと食事を緒にして、その話を聞くことにした。

深川へ馬車を走らせて、朝またそれを日本橋まで運ぶのは大變だつたから、四日市河岸の、以前は材木藏へ使はれてゐたところへ、馬も車も預けることにしてあつた

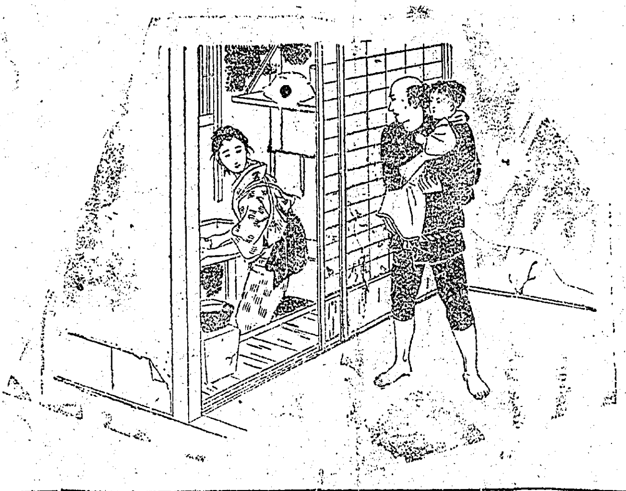
惣介はそこへ馬車を預けると身輕になつて依田の案內に從つた。

人力車を三台つらねて、行つた先は、銀座尾張町二丁目の角にある。天狗樓だつた。

この天狗樓は、つい先頃新築したハイカラ好みの料亭で、毎日この前を馬車で馳せる惣介は、よく知つてゐた。だが、一歩その樓內へ足を印すことは、今夜がはじめてである。

さすがに、ハイカラ好みの、殊に、異國人向きに建られてゐるといふ天狗樓の調度の數々は、およそ新奇なもので、かうした場所へ始めて足を踏み入れた惣介は、たゞ目を瞠るばかり。

部屋々々はすべて、綺麗な色の絨氈を敷きつめ、そへ卓子、椅子がならべてある。疊など、見ることは出來ない。天井からは、目もあやな花ランプが垂れてゐる。壁も柱も、派手な色で塗られてゐる



平素つゝましやかな暮しをしてゐる惣介には、いちどに花園へ連れ込まれたやうな感じだつた。

だが、依田もメリーも、よくこの店へ來るとみえ、馴れた調子で後から來た給仕女に、何かと註文を通してから、それ〴〵椅子に掛けた。

『依田君』

席が定まると、惣介は、改まつた語調で依田の名をよび。いつも何かにつけて[illegible]へしてくる彼の親切を感謝した。

實際、依田は、惣介が小店をはじめた時もさうだし、去年から馬車屋をやつてからも、東京へ來るたびにその馬車に乘り、ともすれば挫けさうになる惣介の心をはげまし、力付けてゐたのである。

落ちぶれて、はじめて身に沁みる人の情けなのだ。惣介は、しみ〴〵と依田の友情に感激してゐる

依田は、明るく笑つた。手を振つて、惣介の言葉を抑へ、これからも力を合してやつて行かう、といふのである。

『有難う。感謝あるばかりだ』

『いや。さういはれると、かへつて恐縮するよ。深見君——ところで、話といふのは、ほかでもないのだ』

運ばれて來た料理や飲物を惣介にすゝめ、自分もやりながら、依田は、要件といふのを語り出した。

話は、ずッと横濱で商賣をしてゐるワドンソン氏が、こんどこの銀座へ、新らしい店を出すことだ。アメリカから輸入して來る珍しい品々をこれまで、ブローカ（仲買人）に任してゐたのを廢して直賣しようといふのである。

『それで、その新店の監理を、君にやつてもらひたいといふのが、ワドンソン氏の希望なのだ。かういつては失禮だが、君ほどの人間を馬車屋で終らすといふのは惜しい、とワドソン氏はいつて居られる。決してこれは、恩を着せやうといふのではない。有爲の人材を埋れさすに忍びないからだ。かうして、メリー嬢と一緒に來たのも、多忙のワドソン氏に代つてメリー嬢が、父君の意志を君に傳へようためなのだ』

話の間、メリーは、その褐色の目にいつぱいの情熱の火を燃やして、惣介の顏を見詰めてゐたのを惣介は知つてゐたか？

平市田町
高久病院
（電話五三一番）
內科　小兒科
外科　花柳病科
耳鼻咽喉科
醫學士 高久忠
新潟醫學士 赤羽清
藥劑士 佐竹勇雄
（看護婦至急募集）

Pilot
N式
パイロット
高級萬年筆

「N」式パイロット高級萬年筆
國策により斷乎として金を使用してありません
特色
▲金ペンよりもづばぬけて書きよい
▲パイロット合金獨特の耐久性
▲インクは最も簡單に這入ること

卒業入學進級の贈物として
最適品—お買上毎にN式用パイロットインク一個呈上
特約店　マルトモ書店
平・四　電話一二三四 一二一四

平病院（平市元共濟病院跡）（電話六四一番）
院主 院長 醫學博士 鈴木定藏
內科　小兒科　院長 鈴木定藏
內臟外科　一般外科　皮膚泌尿器科　副院長 高橋俊幸
レントゲン科　物理的療法科　院長 鈴木定藏
藥劑科　部長 吉本孝平
診療時間……毎日午前八時ヨリ午後九時迄、夜間診療ニ從事ス（急患ハ此ノ限リニアラズ）

耳鼻咽喉科專門
醫學士 鈴木正男
平市田町 藤田女學校前（電話五八番）

鈴木醫院
齒科口腔外科
日本齒科醫學士 鈴木喜政
內郷村高坂 磐炭病院前
『入院のお需めに應ず』（看護婦及び見習看護婦募集）

國民精神總動員……
日本國民・必見の書……
內閣情報部發行
寫眞週報
（1部10セン）
…お取次致して居ります…
（平2）西村藥局（電3）

吸入用酸素 純度99%
度量衡
モノサシ マス ハカリ
計量器
体温器 寒暖計
秤ノ取締 垂系・修繕致シマス。
關內藥局
電話四〇番

事務員、技工招聘
小林齒科醫院
診療所（仙臺市東一番丁七番地 仙臺市鐵砲町二五一）電話三、二七六番
◆御希望の方は書面御照會を乞ふ

銘木（床ノ間材）
天井板、ベニヤ板買ふなら
確かに御期待に添ふ良品廉價の
織田材木商店へ
福島縣平市　電話平四六〇番
營業種目　建築木材一式　銘木・ベニヤ板　秋田産杉四分板　建具材・便利瓦
一變せる勉強振りを、ぜひ一度お試しを乞ふ
◉小店員募集　年齡十五歲ヨリ廿歲迄

おでん、やき鳥
小鳥燒も初めました。
お酒のあとにおけさめし
おでん 茶めし 酒の家
味鄉
平市三田小路（三丁目裏）

登錄商標
稻萬壽　稻歲壽
優等賞受領
植田町
古川酒造店吟釀
電話一六番

◇開店御挨拶◇
味覺を本位として、新しい歡びに充ちて生れた山茶は、味道の客—殊に家族連れ—日本料理と壽司とを主としたモダン割烹で御座います。
當店は家族的な團欒を强調し、設備調度は申す迄もなく、店內の雰圍氣を常に明朗にして氣品を高め、潑剌にして秩序あらしめ、これに美食を配して、御客様が、極めて氣輕に至味三昧に入らんことをーモットーと致し、萬事に心をいたして居ります。
美味無限の山茶！
眞にお客様本位の山茶！
御家族御同伴の山茶！
これこそ、高らかに誕聲をあげた山茶の眞價でございます。何卒御愛顧と御利用下さいます樣切望いたします。
平市仲田町
山茶
主人敬白

お醬油は……ヤマフル
[illegible]
山崎合名會社
福島縣平市
電話（營業部一〇番 本店二七番）
味噌 醬油
たひら正宗
罐詰 食料品
明治生命磐城代理店 山崎與三郎

重田眼科
眼科一般
眼鏡檢定
醫師 重田景治
平驛前通り 元貯蓄銀行跡
平市田町一番地

花の最盛季を通じ超豪華場面を展開

藝妓屋組合公園の番組決定

試驗地獄の憂鬱から颱風一過すると、明後日から今年も愈よ卯月に入つて、春知る乙女の乳くびの如く潮紅して來る枝頭の蕾に、國を擧げて緊張そのものの戰時下作ら、パツと咲き出す花の噂。囚はれた自粛自戒から萎微退嬰に陷るは決して清新溌剌たる銃後陣容を强化する所以でないとお互例年にない一寸變挺な花見前景氣にムズ痒さを感じてゐた折柄、平藝妓屋組合では今年も花の最盛期を通じて第二公園の掛舞臺に新田町美形を總動員した左記プログラムにより、爛漫たる解語の花の豪華場面を展開する事となつた

櫻拍子　愛馬進軍歌　花見獅子　兵隊甚句　日の丸音頭　麥と兵隊　磐城音頭　平小唄

警防團結成式

一日朝第一校で

消防組は昨二十九日、防護團は明三十一日何れも解散新たに生れ出づる警防團は愈よ一日その陣容が發表さる、結成式は既報の如く一日午前六時から第一小學校々庭で擧行、時局に即應した新陣容によつて第一歩を踏み出すわけである

商組協會總會

明年は平市で

織物業其他縣下九十二組合を以て結成されてゐる本縣商業組合協會總會は二十九日福島市に開かれた臨時總會で明年度は平市に開くことに内定した

期限は愈よあす

怠るな國民登錄

國民登錄の締切りは愈よあすだ、過ぐる法令發布以來平職業紹介所では專任職員十餘名を整へ、管内各町村毎に役場吏員、小學校教員等と打合せ趣旨の徹底に努めた、何せ最初のことなので手續き其他から出足がにぶつてゐたが期限の切迫と共に續々殺到したので同所では所員を擧げて晝夜兼行の大多忙、該當者は必ず期限迄に申告を了せられたいと同所では遲滯者の絶無を期して張りきつてゐる

神道教職會發會式

石城神道教職會發會式を來月三日午前十時から市公會堂日本間に擧行、會長は大形昭道師

・・・・・・

夏井區長改選

夏井村行政區長は此程開かれた村會で左の如く改選

山崎大友一馬、菅波鈴木庄作、荒田目阿部才治、上大越阿部安清、下大越渡邊佐寅、藤間久保木貞保

運轉手試驗

本縣自動車運轉手試驗日割左の如く平署で願書受理中

△實地第一次四月五、六日午前八時信夫山試驗場△第二次四月七日午前八時―四時場所未定△學科同月八日午前八時―正午福島市公會堂

星野曹長 市葬

市内二丁目出身故砲兵曹長星野嘉久次君の平市葬は來月六日午後一時から市公會堂で行はれるが同曹の略歴左の如し

平商出身、入營伍長に進級、今次聖戰に參加中支へ出動し八月中旬以來鎭江其他各地の戰闘に參加し昨年十月十日江西省德安縣尼虎尖の激戰で○隊長に代つて健闘中壯烈な戰死（狀況槪報）を遂げ、同日曹長に進級

湯本收入役決る

湯本町では收入役鈴木信顯氏の死去により昨二十九日の町會で收入役代理内山吉五郎氏を推薦決定した

歡喜の二五〇名

縣立磐女入學者

志望者五百十六名に對し半數に足らぬ二百五十名採用と云ふ狹き門、磐女の入學試驗結果は極度に張り切つた關係者待望の裡に今三十日午前十時を以て發表された。根か心弱き少女の事丈けにその成否に對する喜悲こもごもの情景は人をしてそゞろに目がしらを熱くせしむるものがあつた、合格者次の如し

（一年一組）＝片寄幸子　丹野幸子　小齋峰子　瀧本陶子　榮花陽子　藥谷ツネ子　柳内トク子　久栖ツネ子　野村愛子　草野久子　淺田蓉子　西丸美枝　草野サタ子　若松ヨシ子　矢部容子　青天目照子　鈴木總枝　牛久由惠　眞野八重　村田淑子　庄司コウ　根本八重子　渡邊クメ　伊藤榮子　鈴木トシ　澤田トシヱ　森合攝江　佐々木稚子　佐々木悦子　太田元子　倉田美智子　大高美智　遠藤文子　高木英子　田名綱きよ　田子千鶴子　小原喜惠子　相澤喜代子　佐藤忩　上遠野直子　箱根ミユキ　赤津英　北郷幣子　鈴木敏子　三嶋富士惠　内田愛子　遠藤利子　酒井富美子　蛭田成石井のぶ子

（二組）＝今野キヌ子　織内千枝子　松崎キミ子　遠藤歌子　豊田よね子　北郷ひろ　星野美都子　八中村里子　増子ミネ幡テル子　飛田絹枝　園部ウメ子　仁平文子　鈴木佐季子　木田友子　鈴木知惠子　鈴木ミヨ　海老根京子　草野和子　長瀬成子　石田照子　小野德子　筒井登久子　館内芳子　渡邊禮子　渡邊シゲ　野崎節子　森シゲ鹿俣キヨ子　小川美津枝　草苅千惠子　鵜沼茂子　渡邊絢子　鈴木アサ子　阿部榮子　梶原麗子　水品賀子　鷺シツヱ　杉山エイ　荒蓉江　小宅スミ　諸橋愛子　大和田千惠子　佐久間雪子　上遠野澄子　松村智惠子　廣瀬美代子　羽石芳江　長谷川房子　山名信子

（三組）＝金成ヲ元　松崎文子　猪狩經子　齋藤ヒテ子　藥谷アイ子　菅原榮　齋藤マキ子　岩堀むつね　松本泰子　安齋良子　伊藤和子　根本タミ白土ミヱ子　三富節子　荒木顯子　橋本啓子　關根絢子　鈴木シゲル　若松三三子　豊島英代　關内喜代子　青木綾子　新妻ケイ子　安島榮子　草野タミ　常陸和子　志賀千枝子　坂本稚子　鈴木悦子　八代茂子　天谷照子　馬目キサ　渡邊敏江　鈴木ヤスイ　佐々木綠　山野邊富子　船生寛子　志賀タカ子　永山ハツ子　馬目妻子　長谷川花江　青天目幸　皆川一枝　吉井瑛　馬目光子　酒井節子　小島令子　赤木照子　藥谷ナガ子　大賀須ハル子

（四組）＝赤津マサ子　古川エツ子　山野邊繁子　金澤チトセ　水野キヨ子　伊藤イク子　大塚洋子　橋鎌田惠美　村田伊子本初子　佐藤たつ　松本艶子　高橋せつ子　戸田ハル子　加藤紀枝子　小島啓子　宮川喜美代　渡邊シゲ子　小野律子　中山紀美　櫻井芳子　渡邊敬子　佐野照子　中井淸子　高木スガ　富岡拾子　越前よみ子　齋藤律子　齋藤君江　市原貞子　西山勝子　五十石延子　吉邑道子　中根滿子　高橋敬　井上喜代野　山本タカ子　井上節子　草野トシ子　小谷喜美子　鈴木サタ子　根本和子　酒井桂子　安藤純代　遠藤千代子　片寄千代子　小泉良子　柳内良子　中田稚　佐藤惠美子

（五組）＝永山智子　塙信子　佐藤文子　友部輝子　猪狩幸子　酒井美子　作山智惠子　鈴木トク子　堀内昭惠　菊地榮子　畠山愛子　田子光子　菅波イチ子　安藤幸子　猪狩テルヱ　荒川せい子　比佐多乃乃　大河原ウメヨ　川又ケイ　渡邊リヱ　金子照惠　坂本ヤヱ　多丸マリ　渡邊惠代　高萩信子　山名愛子　峰タマヱ　山崎榮子　大塚文子　若松サト子　關根怜子　青山俊子　小松ハル　高野靜枝　鈴木滑子　佐藤利子　猪狩敏子　布施敏子　武田富貴子　太田光子　大久保善子　松崎智惠子　稻沼高子　富澤文子　牧野とよ子　國玉久子　井上節子　柏原笑子　佐藤ミサヲ　小野千代子

鷺清昇氏當選告示

縣議補闕選大團圓

戰時下無競爭の本郡縣會議員補闕選擧會は既報の如く去る二十七日平市會議事堂に於て執行されたが其の結果は府縣制第三十一條により一昨二十八日付左記の通り告示された

告　示

昭和十四年三月二十七日執行の福島縣會議員選擧石城選擧區に於ける當選者の住所氏名左の如し

昭和十四年三月二十八日

福島縣會議員選擧
區選擧長
地方事務官　富澤　清

福島縣石城郡植田町
大字植田字本町
三十番地
鷲　清昇

大多數市内の子弟

商業學校合格者

校舍新築と増募第一次の平商業學校入學考査結果は昨二十九日夜發表されたが受驗者二百八十七名中合格は左記百六十二名である、因に合格率百分比は五六・四で市内三中等校中一番樂だつた事になつて居り市立丈けに市内の子弟が大多數を占めて居ることは云ふ迄も無い

山崎一　平戸要　佐藤作一　矢吹篤　岡部昭二郎　佐藤茂兵衛　佐藤清德　東海林忠人　小峰正　松崎貞雄　三瓶喜久次　大橋久　澁谷定量　大平延平　高島義貞　佐久間喜代治　高井義裕　齋藤嘉一　檻村忠雄　佐藤光平　高原一二　伊藤四郎　我妻正吉　添田庄一　阿邊永　大山隆平　永山隆造　山崎一喜　木村寅夫　松本操一　落合龜彦　遠藤俊明　北山久一　高木昭平　鈴木覺　大和田三之　渡邊敏史　高橋喜正　金成光平　佐藤實　荒木喜夫　遠藤純章　高萩忠夫　高木光平　岡崎兵一　坂本宿雄　松崎通　福本武雄　松本光一　飯澤武　片寄恒雄　橘昭二郎　青木政行　佐川弘道　鈴木廣　淸水弘三　千葉四郎　小野寺幸雄　鈴木正吉　橘内實　平田篤　青木茂　四家昭三郎　坂本孝一郎　西山昇平　篠原繁　石井正昭　松本喜八郎　新妻政治　町井正巳　渡邊藤雄　渡邊一　神永俊亮　岡部清　金成四郎　片岡定利　關原昭　二瓶寅男　金成通　松本久平　大阿久政光　市島德三　桑原英雄　高倉昭一　鈴木俊夫　平野宏一　小野利一　猪狩久男　柏原敬介　梅津卓巖　矢野貞夫　猪狩正一　江尻正美　佐々木川雄　小野裕　椎名藤男　宗方壽重　花見信　薄葉武　菅本庄一郎　山城隆　高崎昇三　馬目正一　馬目久彌　馬目隆雄　鈴木壽太郎　岩淵重良　坂本剛　佐川英一　中條喜也　早川一五　大塚五郎　軍司邊　渡邊吉松　阿部武　下山田誠　樫村元弘　佐藤好美　吉田豐　大越正二　鈴木剛　神谷正廣　布施勝雄　高野正博　江尻平　鈴木稔　伊藤光男　大和田恒治　遠藤傳　木田孝雄　須藤榮良　石井喬　武藤弘　佐藤總一郎　鈴木信夫　金成定一朗　猪狩洋　阿部行枝　遠藤文夫　高崎武一　佐藤政宥　木澤榮六　坂本一　志賀三郎　折笠義彦　阿部正義　安田一永山三郎　武子嘉助　相澤文雄　諸橋政良　細川隆三　阿部正　芳賀吉四郎　佐藤忠雄　大勝一雄　坂本清一　中田三男　木田正夫　叶田一　小林光男　柴田春雄

丹後澤引つ張り凧

市で再契約に惱む

「なひら名所」の一つ、市民の遊園地として解放されてゐる丹後澤は現在八田與八氏が借り受け魚族の飼育遊園施設の改善に骨を折つてゐるがその期限が近く滿期となるので市では再契約のため此程各方面の申込みを受けつけ土木委員會にかけたが「なほ再考の餘地あり」とし、纏らなかつたので昨二十九日迄更に申込みを受理した希望者三名の何れに許可さるゝか注目されてゐる

平市會

今三十日午前十時招集、十三年度水道、土木兩業繰のべに伴ふ十四年度追加更正豫算其他雜件を付議正午近く散會した

水道協會大會

平市では近く盛岡市に開かれる水道協會東北支部第八回總會に左記協議題を提出する

水道用鐵管其他代用品使用せる都市あらば承りたし

平市慶弔錄

△出生　古鍛冶町桐原英純師五男舜也君、本籍南町内郷村宮涌井智太郎氏五男宏益君　本籍研町東京市牛込區彌代町　阿部三治氏四男卯一郎君

○婚姻　下平窪坂本政夫氏（三五）好間村川中子志賀照子さん（二四）

三十一日（小名濱測候所發表）

滿潮　前一、〇五　後一二、四〇
干潮　前六、五五　後七、一五

昭和十四年三月三十一日　金曜　舊二月十一日　丁卯　赤口　建　亢宿

▲一白　强ひて求めずとも次第々々に太り行くべし▲二黒　物始めに尤も吉き日殊に文事上の事に上吉▲三碧　引立てゝやると云はるゝも當てにならぬ日▲四綠　我も人も告發かれと祈り葬すべき注意日▲五黄　石を取除け道を造りつゝ寸尺歩すべき日▲六白　初め難色ある事ものちは次第にがう通すべし▲七赤　果斷を欠くときは何事もはかどらざる日なり▲八白　苦心の企て事が追々と利得に向ひ來る吉日▲九紫　人の事にて迷惑失費多し世話事は注意の事

廣　告

新興ダイヤペン付
ウエル萬年筆
金一圓五十錢以上
本品ハ商工省主催『代用品工業展覧會』ニ於テ一萬數千點ノ出品中萬年筆トシテハ只一點鑑査ニ合格セル新興國策製品ナリ
平市才士小路
代理店　魁文堂
電話313番

看護婦ー及見習
看護婦募集
共ニ經驗ノ有ル方ヲ望ム
植田町本町
前田醫院
電話一二四番

中風・血壓昂進・動脈硬化・高血壓・神經衰弱に
プロナウン
◎高血壓は生命を脅威す
平市田町
阿部藥舖

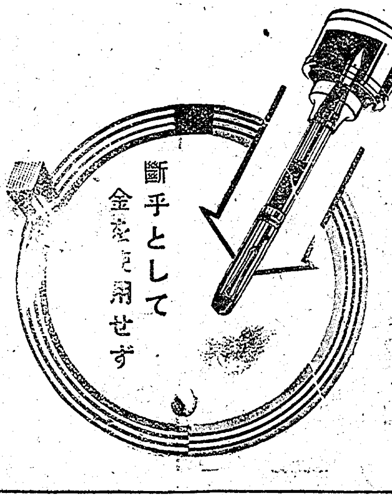
電話五九二番に變りました
食事　喫茶　酒場を兼ねた
レストラン
サロン
平市銀座街

產婦人科
井坂醫院
平市田町　電五五九

聖戰下のプレゼントに
パイロット萬年筆
斷乎として金ペンを用せず

御祝の記念文字彫刻無料
タヲレテモ　コボレヌ　インキ進呈
平市特約店　佐々木商店
電話　二三三番

此度組織を會社に改め營業の充實を圖ると共に統制下にある吾等は國策に順應して御得意各位樣に稍々御便宜を計るべく社員一同努力仕るべく候間倍舊の御引立を御願申上候。
鐵棒、平鐵、しやふと
鐵管、各種レール類
新品中古入荷仕り候間精々御注文相願度向諸機械類各種取揃へ御來駕を御待申上候。敬具
海軍工廠御用達
SK
合資會社　平銅鐵機械商會
平市鍛冶町九（電話五二二番）
電略（イ）又ハ（イ七）
振替東京一五七五二二番
倉庫（平市鍛冶町卅三番地
（平市鍛冶町九番地

夜間診療
胃腸性病
內科　胃腸病科　花柳病科　性病科　皮膚科
專門
（見習看護婦募集）
松村胃腸性病科醫院
（平市南町　電一〇七番）